

イノシシ被害でお困りの方へ



＼ イノシシ被害STOP！ ／ 防護柵設置のコツ

電気柵編



イノシシ被害の対策に有効な電気柵について、
柵を設置する際の**原則**と**ポイント**を紹介します。

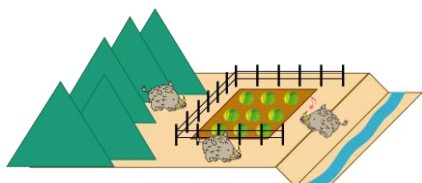
より詳しい内容を知りたい方は、
右記HPに掲載しております
マニュアルをご覧ください。



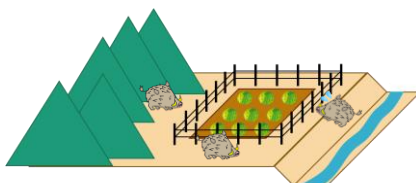
原則 01 農地をすべてぐるっと柵で囲う

× 悪い例 河川側に柵を設置していない。

○ 良い例 農地全面に柵を設置。



山側だけに柵を設置していても、回り込んで柵内に侵入可能



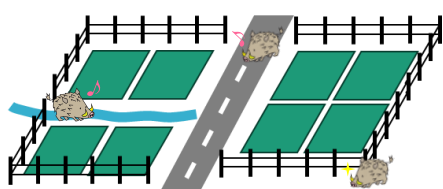
農地のすべての面に柵があるため、柵内に侵入不可能

イノシシは柵の無い所から農地
に侵入します。山側だけでなく、
道路、河川、水路、傾斜地側など、
すべて囲ってください。

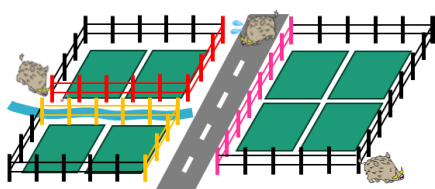
原則 02 水路や道路を横断することで柵を途切れさせない

× 悪い例 水路や道路から農地へ侵入可能。

○ 良い例 水路や道路から農地へ侵入不可能。



水路や道路にできた柵の切れ目から農地へ侵入可能



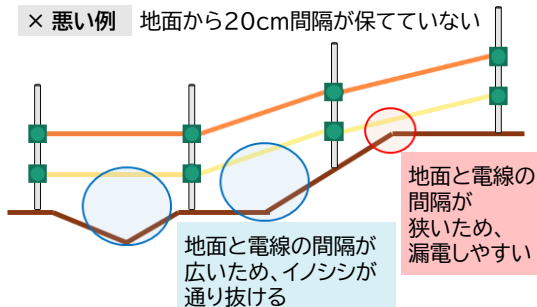
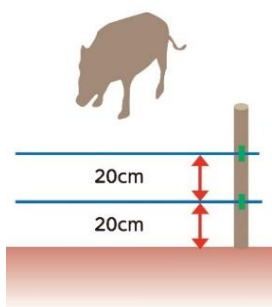
水路や道路沿いにも柵があり、農地へ侵入不可能

水路や道路で柵が途切れてい
ると、イノシシはそこから侵入し
ます。柵が途切れ無く、農地の
周囲を囲いきれる範囲に分け
て柵を設置しましょう。

原則 03 電線を地面から20cm、40cmの高さに維持する

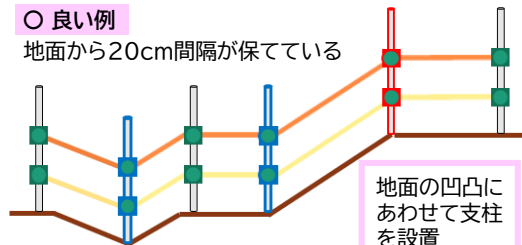
× 悪い例 地面から20cm間隔が保てていない

○ 良い例 地面から20cm間隔が保てている



地面と電線の間隔が
広いため、イノシシが
通り抜ける

地面と電線の
間隔が
狭いため、
漏電しやすい



地面の凹凸に
あわせて支柱
を設置

イノシシに電気ショックを与えるには、イノシシが鼻で電線に触る必要があります。
そのためには、電線を地面から20cm、40cmの高さに設置することが重要です。
地面の凹凸にあわせて支柱や電線を追加し、電線の高さを維持しましょう。

※このチラシをA4用紙に印刷しているならば、横の長さが21cmです。



親指と中指の間に20cm

自分の手で
おおよそ
20cm間隔を
測っておくと
便利！

原則 04 傾斜地(斜面)から離して柵を設置する

× 悪い例 傾斜地の境界に柵を設置。



○ 良い例 傾斜地の境界から離して柵を設置。



傾斜地の境界に設置した柵は、管理が難しく、イノシシに侵入されやすくなります。人が歩ける程度の幅を確保しましょう。

原則 05 農作物から離して柵を設置する

× 悪い例 農作物が柵の外にはみ出している。



○ 良い例 柵と農作物の間に余裕がある。

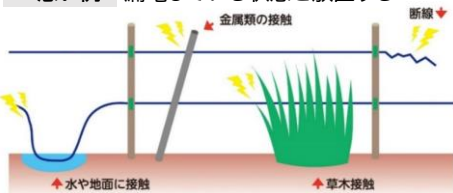


・人が余裕をもって歩ける、草刈りなどの管理がしやすい幅を確保
・除草剤や防草シートも活用する

柵の外からの食害や、漏電の原因になる場合があります。草刈りなどの管理もしやすいように、作物と柵の間に幅を確保しましょう。

原則 06 柵設置後は、定期的に点検・維持管理作業を行う

× 悪い例 漏電している状態を放置する



○ 良い例 こまめに電圧を

チェックし、漏電箇所があれば補修する。



柵設置後は、**こまめに点検・補修・電圧のチェック**を行いましょう。また、下草の刈払いなどを行い、漏電に気をつけましょう。

設置する際に気をつけるポイント

ポイント 1 電気が流れていない状態を作らない

- ・電気柵を設置したら、24時間365日、常に電源ON！
- ・夜だけ電気を流すモードは使わない！ 明るい時間にもイノシシは出没する
- ・農作物が無い時期も電源は切らない！

(電源を切るなら電線だけでも撤去する)

電気が流れていない電線を放置すると、イノシシは慣れて電線を触らずに潜り抜けるようになるため、柵の効果がなくなる

角は内側に力がかかるため、

- ・太い支柱を使う
- ・支柱を複数打ち込む
- ・支柱を補強する

電線の連結部分は隙間ができないように巻きつける



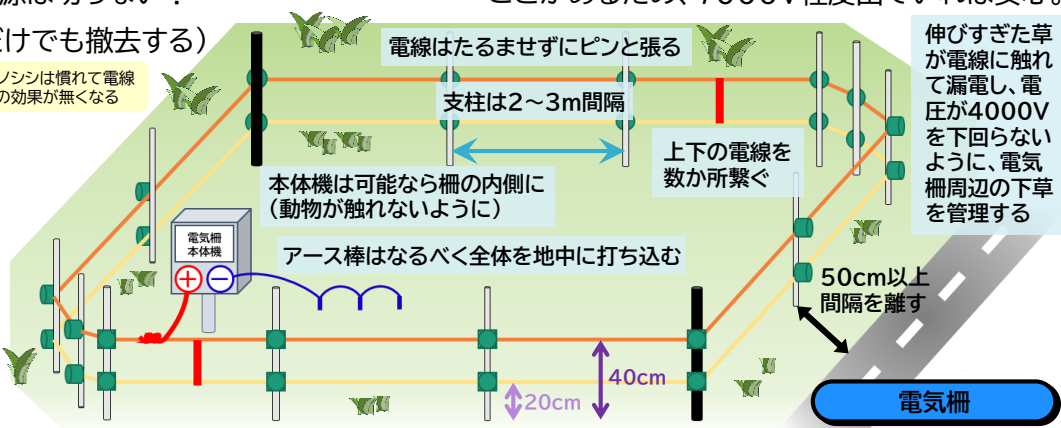
ポイント 3 ガイシは外向きに設置する

電線を支柱に固定する
ガイシは、柵の外側(イノシシ側)に向けて設置する。



ポイント 2 電圧4000V以上を維持する

- ・イノシシ対策では最低4000V以上を確保する。
- ・草の接触や地面の状態によって電圧が下がる
ことがあるため、7000V程度出ていれば安心。



ポイント 4 道路や舗装面から離して設置する

舗装道路、砂利道は電気を通しにくいので、50cm以上離して設置する。

